

古くはL型エンジン時代のフェアレディZから谷田部での最高速トライアルを駆って来たトライアル。しかし、そんな老舗中の老舗にもかかわらず、トライアルは常にフレキシブルな発想によって魅力的なマシンメイクにチャレンジし続けてきた。常に時代をリードしてきた実力派ショップなのだ。

さらに、トライアルは広大な敷地に大型のピットとショールームを備えており、ハードチューンへの取り組みと同時に、いち早く「数値の高い」チューニングショップから脱却したことで有名。そのため、ショールームにはいつも多くのお客さんが、チューニングやメンテナンスの相談に訪れている。1度でも行ったことがあるひとならわかるように、トライアルってとても活気あるショップなのである。

そして、もうひとつトライアルの特長として挙げられるのが、チューニングベースとしてはあまり見かけることがないベース車を手がけることが多いということ。市販パーツの少ない車種でも豊富なノウハウと高い技術力を武器に、走りを楽しめるマシンに変身させてくれるんだよね。

そのためにピットには常にバリエーション豊かな車種が揃っている。他のショップではお手上げと言われてしまった車種などにも積極的にチャレンジするなど、老舗でありながらチャレンジする精神を忘れないのだ。

さて、そんなトライアルから今回紹介したいのはトヨタ最後のミッドシップカーであるMR-S。このMR-Sはエンジンがターボ化されているんだけど、なんと言っても見どころは完成したばかりのワイドボディだろう。

このボディキットの装着後の全幅はノーマルの1690mmに対し、片側55mmオーバーとなる全幅1800mm。コンパクトなMR-Sはパワーを大幅に上げていくとミッドシップ特有のピークを特性が顕を出してくるけど、ワイド化することによってグンと乗りやすくなるということ。MR-Sにとってのワイドボディ化は、それこそもったい足まわりなどの作り込みをキッチリ合わせこんでやれば信頼性のよさを残しつつ、それを絶対的なコーナリング性能のアップにつなげるこ

## ワイドボディ化は可能！

とができる非常に効果的なチューニングということだった。

さらに、ルックスに関してはGTマシン風のフンダーラインや各部のダクト配置などによって、非常にレーシーなイメージでまとめられているのが特徴となっていて、特にこのマシンではカーボンファイバーベースにクリアレッドを使ったスタイリッシュな塗りわけがなされているのが印象的。強い光が当たっているときは、カーボン地がよく透けて見えるワザおりのペイント術も施されているんだよね。「エアロメイクはとりえずひと段落したので、次はエンジンのリメイクにとりかかる予定になるとんや。MR-SはNAのまま詰めていっても楽しいし、過給器でやるのも刺激があってエエな。もたらにつけ、ミッドシップならではのコーナリングがたまらんし、それをより伸ばすためのワイドボディ化はオススメやね」といふトライアル代表のマッキー牧原。最近、またサーキット走行を再開したらしく、このマシンの仕上がりに興味津々といった感じだったぞ。



トヨタMR-Sのワイドボディ化は、その性能をさらに引き出すための重要な要素の一つ。牧原マッキーは、このMR-Sをベースに、独自のチューニングを施し、より高い性能を実現している。写真には、牧原がMR-Sのワイドボディ化について話している様子が写っている。

